

キコニアレター

2022.11.30 発行 No.31

初めてのコウノトリ ～ 飛来、産卵、ふ化、巣立ち、そして…～



淡路市教育委員会 社会教育課
TAKATA Daichi
高田 大地

コウノトリが繁殖している地域は、淡路市の南端に位置し、小高い山並みに囲まれた盆地が広がります。この地区の特産である線香の香りが誘い、米・野菜等の農業や和牛の繁殖が盛んです。また、伝統行事や祭り、文化財を守り続けています。

令和3年2月にコウノトリのペアが飛来し、市内の電柱に巣を作り産卵しました。そして、多くの市民に見守られながら、本市初のヒナが誕生しました。今年も昨年に続き2年連続となるヒナが生まれ、無事に巣立ちを迎えました。これまで3羽(R3:1羽、R4:2羽)のコウノトリが本市から巣立っていきました。

これまでの取組

電柱や土地の所有者、周辺地域の方々のご協力を得ながら、巣作りから産卵、ふ化、巣立ちと「繁殖行動」を観察し見守り続けてきました。安全に見守るため案内看板の設置や、生まれたヒナが元気に育ち、大空に羽ばたいてほしいという願いを込めた愛称募集、営みを撮影した写真展の開催等、市民に愛着や親しみを持っていただくための取組も実施してきました。また、特別出生届や特別住民票、マイナンバーカードを発行し、コウノトリは本市の住民となっています。

住民の協力

コウノトリの話題は、市民の関心も高く、本市に飛来してからは、多くの見学者が訪れています。見学者同士が声を掛け合い、コウノトリの生育と成長を第一に考えながら一丸となって見守ってきました。人々の思いやりが通じ、誕生したヒナは元気に巣立つことができました。

コウノトリが繋ぐ輪

本市から巣立った幼鳥が、大空を元気に飛ぶ姿を求めて他県まで足を運ぶ方も多く、情報を住民同士が共有し、喜びを分かち合っています。これからも、市内で生まれるコウノトリが元気に巣立つことを楽しみにしています。

これからの取組

地域住民や見学者に、コウノトリをより安全に見守っていただくため、「観察棟の設置」や「駐車スペースの確保」などの周辺整備を検討しています。さらには、地域住民やNPO法人、関係機関と連携し、コウノトリの定着が可能な環境改善、観光や地域住民の交流の場及び地域の特性に適した周辺整備も検討していきます。コウノトリと人との「持続可能な共生社会の実現」に向けて。



飛来した親鳥 左:J0200オス(愛称:大町)
右:J0167メス(愛称:小町)



羽ばたく幼鳥J0345メス(愛称:淡夢【あむ】)



上:巣立った幼鳥J0417メス(愛称:淡美【あみ】)
下:幼鳥J0416オス(愛称:淡輝【あき】)

コウノトリの個体数(2022.10.31 時点)

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	28	27	0	55
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	16	20	1	37
養父市伊佐拠点	1	1	0	2
計	45	48	1	94

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	18	15	0	33
兵庫県野外巣立ち	69	87	0	156
野生個体	0	1	0	1
他府県放鳥	11	6	0	17
他府県野外巣立ち等	50	52	0	102
計	148	161	0	309

持続可能な「真の野生個体群」の再生を目指して

～2022年9月15日 定例記者会見より～

大空を舞う優美なコウノトリの姿が全国へと広がっています。

2005年の初放鳥以降、野外コウノトリは増加し、12年後の2017年には100羽、その3年後の2020年には200羽。そして、それから2年後の今年、野外コウノトリは300羽を超えました。繁殖地も一層広がり、今シーズンは近親婚の4例を除き、全国9府県43カ所の巣塔などで繁殖し、うち34カ所から80羽の若鳥が元気に飛び立っていきました。兵庫県但馬地域の個体群を基に、各地で小さな個体群が形成されつつあり、国内メタ個体群構造の構築が達成されつつあります。

その一方で、様々な課題が見えてきました。一つ目はコウノトリの餌動物を確保し、流域生態系の生物多様性の保全を行うための環境整備です。コウノトリの餌の変化を調べると、国内絶滅以前は淡水魚やカエルなどが主でしたが、現在は主に昆虫を食べています。流域の生態系を保全するためにも、海・川・水路・水田の水系のつながりを取り戻し、淡水魚を増やす必要があります。

二つ目は、コウノトリの繁殖場所を考えていく必要が出てきています。現在多くのコウノトリは巣塔で繁殖しています。しかし、近年携帯電話などの電波塔の増加につれ、そこでの営巣が急増しています。電波塔での造巣は、避雷針への落雷のリスクと足環装着の困難さから回避する必要があります。しかし、撤去が間に合わずに産卵に至るケースが増加してきている状況です。コウノトリを野生に戻すためには、国内絶滅以前の野生のコウノトリが造巣していた樹上に戻していく必要があります。巣塔から、樹木巣に切り替えていく実験的な取り組みも進めていきます。

人とコウノトリが共生していける社会づくり・環境づくりのためにはまだまだ大きなハードルがあります。持続可能な「真の野生個体群」の再生を今後も地域や関係機関と手を携えて進めていきたいと思っています。



豊岡市森井巣塔での巣立ち



水田魚道を説明する大迫エコ研究部長



鳥取県南部町に作られた樹木巣
写真提供：南部町教育委員会

2022年 繁殖トピックス

今シーズンは野外コウノトリが300羽を超え、野外での巣立ちも80羽となりました。
今年新たに誕生した繁殖地や、近親婚対策などのトピックスを紹介します。

近親婚対策 ～兵庫県豊岡市～

今シーズン、兵庫県豊岡市では近親婚を防ぐため2カ所で個体の捕獲を行いました。

豊岡市日高町広井では、昨年から繁殖行動を行っていた、J0210オスとJ0087メスの姉弟ペアのJ0210を4月に捕獲しました。その後、J0087は新たなオスと繁殖行動が見られましたが、今シーズンの繁殖は成功しませんでした。

また、豊岡市祥雲寺では、親子である、J0021オスと野生個体「エヒメ」が繁殖行動を行い、産卵しました。近親婚で生まれた個体は、野外個体群の遺伝的多様性を下げることに現段階では回避する必要があるため、J0021を捕獲し、卵を保護しました。近親婚による影響を調べる目的で托卵された卵からは無事に1羽のヒナがふ化し、飼育下で育っています。



祥雲寺巣塔の「エヒメ」(左)とJ0021(右)

石川県で初繁殖

石川県志賀町(しかまち)では、石川県で初となる繁殖に成功しました。

今回新たに繁殖したペアは、オス親(J0195)が2018年に兵庫県豊岡市で巣立った個体で、メス親(J0205)が2018年に福井県越前市で放鳥された個体です。昨シーズンも石川県内で造巢していましたが、産卵には至らず、今回は志賀町の電柱で繁殖に成功し、3羽のヒナが巣立っていきましました。

また、石川県津幡町(つばたまち)でも造巢、産卵がありましたが、残念ながらふ化に至りませんでした。



石川県志賀町での足環装着

鳥取県で新たに2カ所の繁殖地

鳥取県八頭町(やずちよう)と北栄町(ほくえいちよう)で新たなペアが繁殖に成功しました。

八頭町で新たに繁殖したペアは、オス親(J0135)が、2016年に朝来放鳥拠点で放鳥された個体で、メス親(J0144)が、2017年に兵庫県豊岡市で巣立った個体です。北栄町で新たに繁殖したペアは、オス親(J0240)が2019年に京都府京丹後市で巣立った個体で、メス親(J0263)が2019年に兵庫県豊岡市で巣立った個体です。どちらも電波塔での営巣でしたが、通信会社のご協力をいただき、無事に足環を装着することができました。



鳥取県八頭町での足環装着

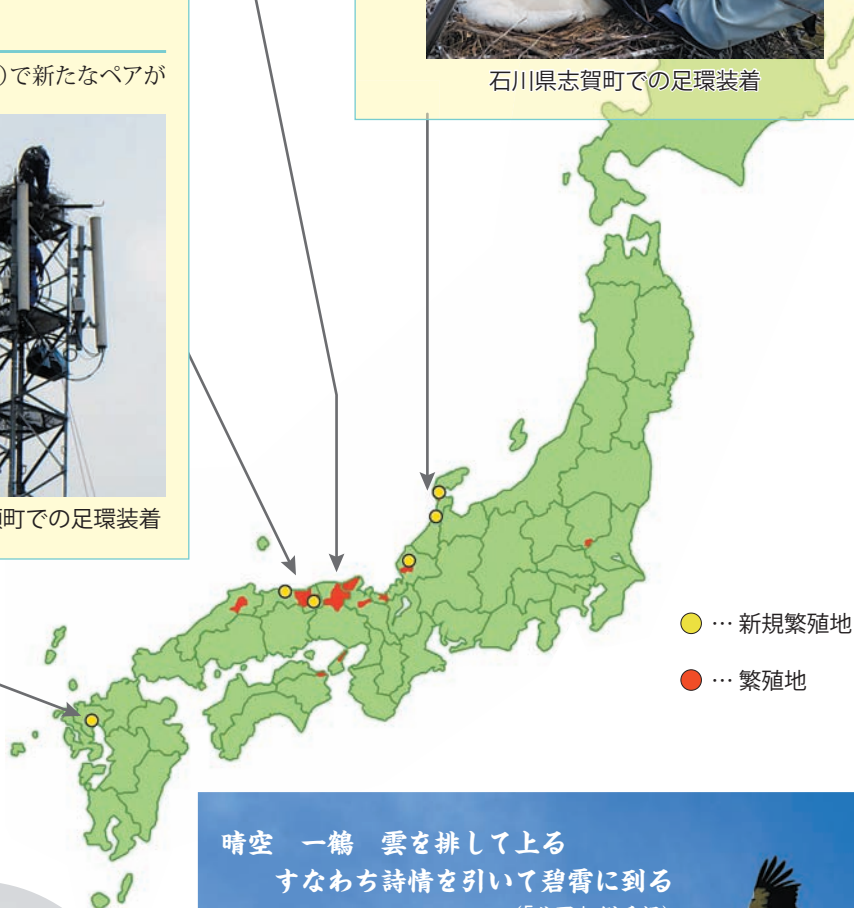
九州初のふ化 ～佐賀県白石町～

佐賀県白石町(しろいしちょう)では、九州地方で初めてとなる産卵・ふ化がありました。

今回産卵したペアはオス親(J0141)が2017年に徳島県鳴門市で巣立った個体で、メス親(J0133)が2016年に兵庫県豊岡市で巣立った個体です。5月に電柱で造巢を始め、3卵の産卵を確認しました。その後、6月にはふ化しヒナを確認することができましたが、残念ながら巣立ちには至りませんでした。来シーズンは、ぜひ繁殖に成功することを期待しています。



佐賀県白石町での営巣
提供：白石町教育委員会生涯学習課



● … 新規繁殖地

● … 繁殖地

晴空 一鶴 雲を排して上る
すなわち詩情を引いて碧霄に到る
(「秋思」劉禹錫)

曇りがちの但馬に、時おりあらわれる秋のさわやかな青空。その透き通った青色のなかをコウノトリが飛ぶ。但馬独自の風景もいまや、各地で見られるようになりつつある。研究科もはや八年。学窓を巣立ったコウノトリたちの飛翔も漏れ聞こえるようになった。とても嬉しい瞬間だ。
(望鶴生)



No.27
RRM
column

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科コラム

各種イベントを実施しました

サマーキッズデイ 7/23(土)

観察広場、祥雲寺楽塔、観察サイトなどをめぐるスタンプラリーや、セミナー室において親子を対象にしたコウノトリの生態や野生復帰の歴史などについて学ぶ「自由研究応援レクチャー」を開催しました。



砂の世界をのぞく展 8/11(木)～8/14(日)

山陰海岸ジオパーク内の砂や礫を展示し、顕微鏡観察や鳴き砂体験などにより、地質の違いを体感していただきました。また、今年は「砂絵コーナー」を新設し、大人から幼児まで砂を使った作品作りを楽しんでいただきました。



非公開エリア特別ガイドウォーク 5/8(日)・7/3(日)・9/11(日)



普段は立ち入ることのできない非公開の飼育ゾーンを、飼育員がコウノトリの保護増殖と野生復帰についてお話ししながら案内しました。繁殖ケージでは、目の前でコウノトリの給餌の様子をご覧いただきました。

野外コウノトリ300羽記念 缶バッジの配布 8/6(土)～8/7(日)



野外コウノトリが300羽を超えた事を記念して、ご来園の皆様へ記念缶バッジを配布しました。野外コウノトリは、2005年の初放鳥から2020年に200羽を突破し、その後わずか2年で300羽に到達しました。また、繁殖地は昨年7府県（兵庫・島根・鳥取・京都・福井・徳島・栃木）でしたが、今年は石川と佐賀も加わりその広がりを見せています。

飼育コウノトリへの給餌体験 6/11(土)・7/31(日)・9/24(土)

飼育するコウノトリへの餌やりを実際に体験していただきました。多くの皆様にご参加いただき、コウノトリ飼育への理解を深めていただくとともに、間近でその様子を観察できたと大変ご好評をいただきました。



兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科

令和5年度 学生募集

地域資源マネジメント研究科は、コウノトリの研究などの生態学(エコ)、地球科学(ジオ)、人文社会科学(ソシオ)の3つの分野を学ぶことが出来る大学院です。(社会人のための長期履修制度もあります。)

C日程 試験日：2023年3月5日(日)
願書受付：2月8日(水)～21日(火)

問い合わせ

兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス
TEL.0796-34-6079 (学務課)

詳細はホームページをご覧ください。
<https://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>

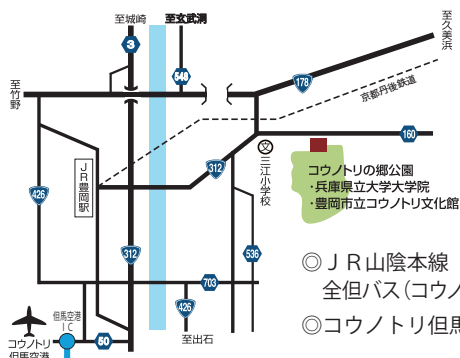


郷公園の

情報発信中です

コウノトリの郷公園では、公式ホームページやSNSで情報をお伝えしています。特にフェイスブックとインスタグラムでは、日々の郷公園の様子をはじめ各種イベント情報や「今日は何の日?」など、旬の各種コンテンツを発信しています。ぜひチェックしてみてください。

ACCESS!



◎神戸から [2時間10分]
姫路から [1時間45分]
最寄り 但馬空港 I Cから20分

◎JR山陰本線「豊岡駅」から4.5km
全但バス(コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き)

◎コウノトリ但馬空港から12km

編集後記

この度、野外コウノトリの数が300を超えました。メディアでも取り上げられ、記念バッジ配布の日には多くの皆様にご来園いただき、我がことのように喜びの声をお聞かせいただきました。また、非公開エリアで実施する「給餌体験」や「特別ガイドウォーク」では、コウノトリへの理解を深めようと飼育員等へ熱心にご質問をいただけることは私どものモチベーションアップにもつながっています。今後とも皆様からのご感想やご意見をお聞きしながら、より親しみやすいイベントや普及啓発に努めていきたいと思ひます。

(自然解説員 白岩雅之)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺 128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間: 9:00～17:00

休園日: 毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日)

12月28日～1月4日

e-mail: kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ: <https://satokouen.jp/>

facebook ページ: <https://www.facebook.com/satokouen/>

Instagram: https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/



HP

FB

Instagram